



紀伊山地の霊場と参詣道

紀伊山地の参詣道ルール

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は、万物、生命の根源である自然や宇宙に対する畏敬を、山や森に宿る神仏への祈りという形で受け継いできた、日本の精神文化を象徴する文化遺産です。

私たちは、このかけがえのない資産がもたらす恵みを、世界の人々がいつまでも分かちあえるよう、参詣道を歩くにあたって次のことを約束します。

1. 「人類の遺産」をみんなで守ります
2. いにしえからの祈りの心をたどります
3. 笑顔であいさつ、心のふれあいを深めます
4. 動植物をとらず、持ち込みず、大切にします
5. 計画と装備を万全に、ゆとりを持って歩きます
6. 道からはずれないようにします
7. 火の用心をこころがけます
8. ゴミを持ち帰り、きれいな道にします

●和歌山県の世界遺産の取り組み

平成12年	4月 和歌山県教育委員会内に世界遺産登録推進室を設置 6月 県、関係市町による「和歌山県世界遺産登録推進協議会」を設立 県庁内に「和歌山県世界遺産登録推進本部」を設置 10月 「和歌山県世界遺産登録推進高野地域協議会」及び「和歌山県世界遺産登録推進熊野地域協議会」が発足 11月 国の世界遺産暫定リストに「紀伊山地の霊場と参詣道」を記載することを文化庁が決定
平成13年	4月 ユネスコ世界遺産暫定リストに「紀伊山地の霊場と参詣道」が記載される。 和歌山県、三重県及び奈良県による「世界遺産登録推進三県協議会」が発足 学識経験者8名による「高野・熊野」世界遺産登録学術委員会を設置 和歌山県、文化庁及びユネスコ世界遺産センターの共催により、「アジア・太平洋地域における信仰の山の文化的景観に関する専門家会議(信仰の山会議)」を和歌山県内で開催
平成14年	9月 金剛峯寺境内「徳川家靈台」・「金剛三昧院」が史跡指定される 「和歌山県世界遺産登録推進大辺路地域協議会」が発足 10月 三県合同事業として「紀伊山地の霊場と参詣道」のロゴマーク等を作成 国の文化審議会が「紀伊山地の霊場と参詣道」を世界遺産として推薦することについて了承 12月 「大辺路」をはじめとする4件11物件が史跡指定される
平成15年	1月 国からユネスコ世界遺産センターに対し、推薦書送付(ユネスコ受理27日) 10月 國際記念物遺跡会議(イコモス)による現地調査(11日～19日)
平成16年	6月 第28回世界遺産委員会(中国蘇州・28日～7月7日) 7月 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録決定(1日 日本時間18:12) 正式登録(7日 日本時間18:26)
平成17年	3月 和歌山県世界遺産条例公布(25日) 4月 「和歌山県世界遺産センター」を田辺市(旧本宮町)に設置 7月 和歌山県世界遺産条例施行(1日)
平成18年	7月 和歌山県世界遺産マスター制度創設
平成19年	4月 展示&交流空間“Kii Spirit”を和歌山県世界遺産センター内に開設
平成21年	7月 「世界遺産 熊野本宮館」(田辺市施設)に和歌山県世界遺産センターが移設
平成23年	9月 紀伊半島大水害が発生
平成25年	1月 「世界遺産熊野本宮館」および「和歌山県世界遺産センター」がリニューアルオープン
平成26年	7月 世界遺産登録10周年
平成28年	1月 政府よりユネスコ世界遺産センターに対し、軽微な変更提案書提出 6月 イコモスから承認勧告されたことをユネスコが発表 10月 第40回ユネスコ世界遺産委員会の臨時会合(フランス・パリ)において追加登録が決定(24日)



世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道

WORLD HERITAGE
Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range

日本
の
精
神
文
化
が
息
づ
く。

●世界遺産に関する問い合わせ 和歌山県世界遺産センター

〒647-1731 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1
TEL・0735-42-1044 FAX・0735-42-1560
<http://www.sekaiisan-wakayama.jp/>

●このリーフレットに関する問い合わせ 和歌山県観光局 観光振興課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL・073-441-2424 FAX・073-432-8313

◆ふるさと和歌山応援寄附(ふるさと納税)によりお寄せいただいた寄附金を世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用に役立てています。



2019.3

表紙写真:熊野川雲海

和
歌
山
県

和歌山県



熊野の四季彩



(春)湯登神事
御輿、稚児などの行列が春の花であふれる道を進む熊野本宮大社の神事

(夏)那智の火祭
赤々と燃え立つ大松明の炎、飛び散る火の粉、神の座す大滝で舞う火の祭

(秋)福定の大銀杏
晩秋になると黄金色に輝き出す大銀杏。熊野の訪問者を優しく迎える

(冬)お燈まつり
燃え盛る松明を手に白装束に荒縄をしめた男たちが一齊に駆け抜ける

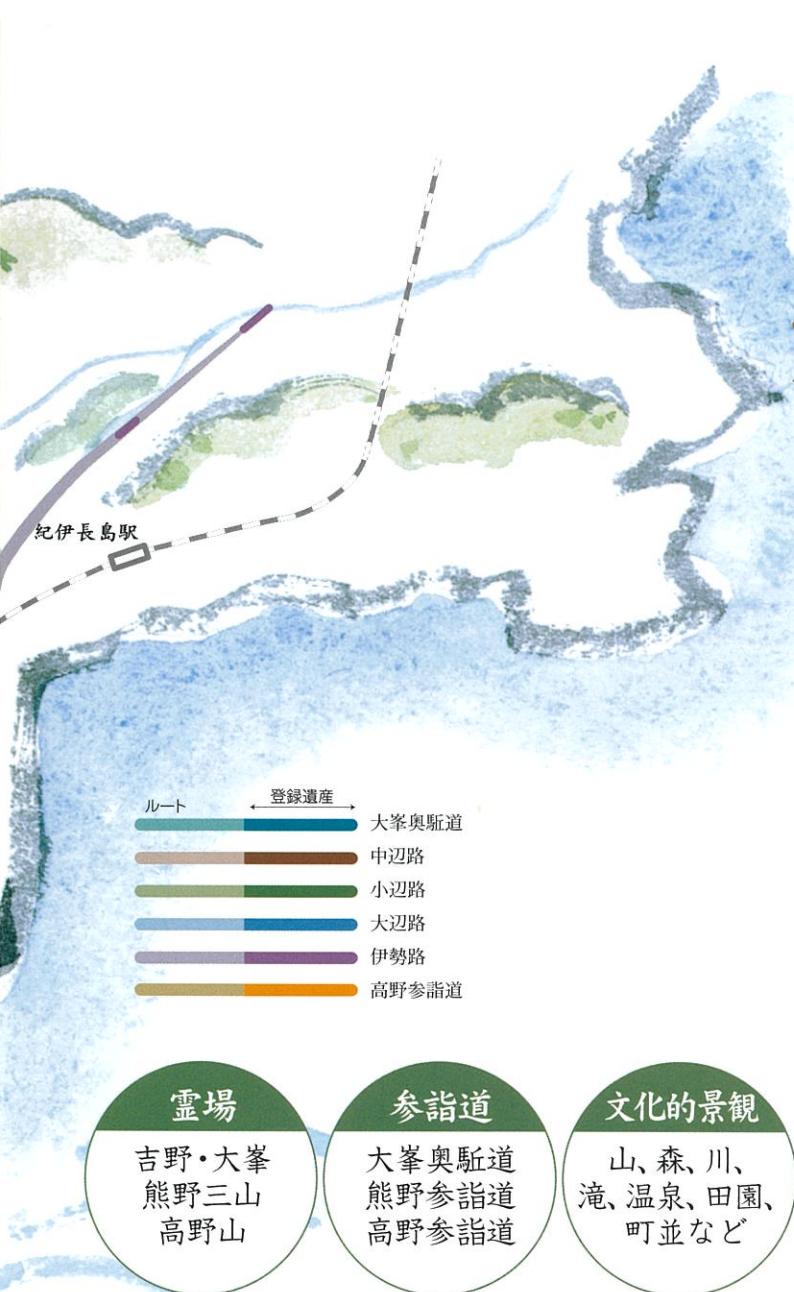
紀伊山地の靈場と参詣道

紀伊山地は太平洋に張り出した紀伊半島の大部分を指し、標高1000m級の山脈が東西あるいは南北に走り、年間3000ミリを超える豊かな雨水が深い森林を育む山岳地帯です。

紀伊山地は、神話の時代から神々が鎮まる特別な地域と考えられていました。中国から伝來した「仏教（真言密教）」も、紀伊山地を山岳修行の場としていました。また、仏教の影響力が強まるにしたがい、「神仏習合」という日本固有の思想と「末法思想」が広まり、紀伊山地を「淨土」に見立てることや、修驗道のように山岳修行により超自然的な力を獲得するといった修行の舞台となりました。

した。その結果、紀伊山地には「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」の三つの「山岳靈場」と、そこに至る「大峯奥駆道」、「熊野参詣道」、「高野参詣道」などの「参詣道」（巡礼道）が生まれ、都をはじめ全国から人々の訪れるところとなり、日本の宗教文化の発展と交流に大きな影響を及ぼしました。

『紀伊山地の靈場と参詣道』は、和歌山、三重、奈良の三県にまたがる「紀伊山地の自然」がなければ成立しなかった「山岳靈場」と「参詣道」、及び周囲を取り巻く山、森、川、滝、温泉、田園などの「文化的景観」が主役であり、世界でも類を見ない資産として価値の高いものです。



文化的景観

「文化的景観」というのは、「自然と人間の営みが長い時間をかけて形成した風景」のことです。信仰の対象とされてきた「山々」や「森」、「棚田」や「ブドウ畠」、「庭園」や「公園」が世界遺産に登録されています。山や樹木、岩や滝といった自然物も、自然的要素の強い宗教と関連することによって「文化的景観」の仲間入りをします。

『紀伊山地の靈場と参詣道』は、単なる「社寺と道」ではなく、あくまで「山岳信仰の靈場と山岳修行の道」であり、紀伊山地の自然がなければ成立しなかったといつてもいいでしょう。

この山岳靈場と参詣道の「文化的景観」を護っていくためには、単に社寺など文化財に指定されているものを保存すればよいというものではなく、基盤となっている自然もまた良好な状態で維持するとともに、地域文化を継承することも重要です。何代にもわたって引き継がれ、培われてきたこの「文化的景観」を、世界に誇る財産として保全していく必要があります。

高野の四季彩



(春)清浄心院の傘桜
樹齢300年の傘桜が色づき、ようやく訪れた高野山の春を告げる

(夏)ろうそく祭り
約10万本ともいわれる、ろうそくに照らされた灯りの道が幻想的な世界に導く

(秋)蛇腹道の紅葉
やわらかい秋の風が高野山に色づいた葉をゆっくりと揺らす

(冬)雪の御影堂
しんしんと降る雪を受け止めて、清らかな空気と静寂さが漂う

熊野参詣道

(熊野古道)

くまのさんけいみち

中辺路

(なかへち)
沿道にある熊野神の御子神を祀る「王子」、あるいはその遺跡が点在する。熊野本宮大社と熊野速玉大社の間は、熊野川の舟運が利用された。

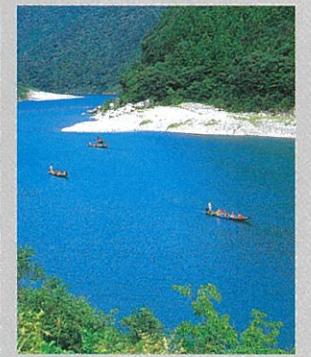
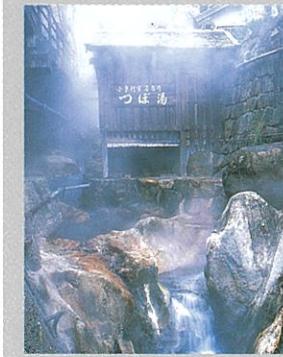


大辺路

(おおへち)
海岸美が楽しめる道。江戸時代からは、観光を兼ねた人々が利用した。



世界遺産の参詣道として登録されている数少ない温泉と川



熊野川 (くまのがわ)
平安時代から江戸時代にかけて熊野本宮大社から川舟を利用して熊野速玉大社に詣でた。「熊野川」は川の参詣道として世界遺産に登録されている。

大峯奥駈道

おおみねおくがけみち
吉野と熊野を結ぶ修験者の修行の道。吉野から熊野まで2000m近い山々の尾根を縫って続き、随所に行場が設けられている。

伊勢路

いせじ
主に東国の人々が利用した道。参詣者の利用が増加するのは、伊勢神宮と西国巡礼が盛んになる江戸時代からである。

小辺路

こへち
熊野参詣道のなかで、最も険しいルートで標高1000mを超す峠を三つも越えなければならない。



高野参詣道町石道

高野参詣道

(こうやさんけいみち)

高野山への参詣道は、いわゆる「高野七口」と呼ばれているように東西南北さまざまな方向から通じている。2004年に「町石道」が世界遺産として登録され、2016年には「三谷坂」「京大坂道不動坂」「黒河道」「女人道」が追加登録された。

「町石道」は、空海により開かれ、沿道に一町(約109m)及び一里(約4km)ごとに町石(石製道標)が建てられている。「三谷坂」は、平安時代までその記録をさかのぼることができ、丹生酒殿神社と丹生都比売神社を結ぶ。「京大坂道不動坂」は、近世に京・大坂方面から摩尼山、楊柳山の間を抜け千手院口に至る。「女人道」は、壇上伽藍を開む峰々の尾根を伝いながら女人堂を開んでいた。これらの道が持つ歴史や文化は高野山への信仰の姿を今に伝えている。

熊野



補陀洛山寺

ふだらくさんじ

小舟に乗り、南の海上にみるとされる「補陀落淨土」をめざした渡海僧を送り出した寺院として知られる。



熊野本宮大社

くまのほんぐうたいしゃ

古代の創祀以来、大斎原に鎮座していたが、明治22年(1889)の水害後、上四社3棟を現在地に移築したものである。



大斎原

おおゆのはら

熊野川と支流の音無川・岩田川の合流地の中州にあり、明治22年まで熊野本宮大社が鎮座し、社殿堂塔が建ち並んでいた。



熊野速玉大社

くまのはやたまいしゃ

熊野川河口に鎮座し、境内には神木とされる天然記念物の「ナギの木」が壮大な樹幹を広げている。



神倉神社

かみくらじんじゃ

熊野速玉大社の飛地境内に鎮座する摂社であり、ご神体の巨大岩は、その地の方言でヒキガエルを意味する「ゴトビキ岩」と呼ばれている。

靈場「熊野」は熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社、那智山青岸渡寺、補陀洛山寺の三社二寺で構成される。

三社は個別の自然崇拜に起源を持つが、主祭神を相互に勧請し「熊野三所権現」として、また神仏習合の盛行により信仰を集めた。

那智山青岸渡寺は西国巡礼の一番札所として、補陀洛山寺は補陀落渡海信仰で知られた寺院である。

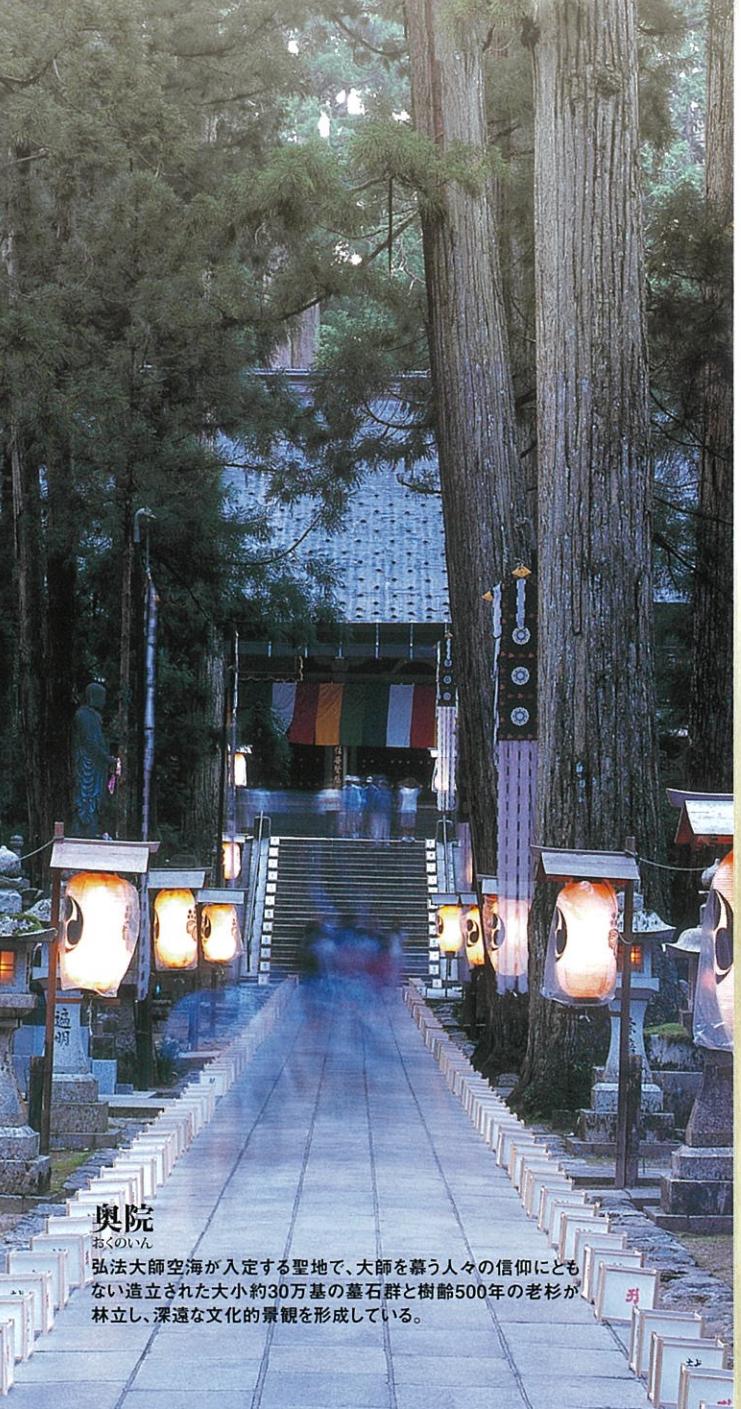


高野山は、およそ1200年の信仰の山の歴史を秘めた山上の宗教都市で、寺院と樹叢が一体となつた信仰に関連する文化的景観を形成している。

靈場「高野」は、816年に空海が真言密教の修禅の道場として創建した「金剛峯寺」、山下に建設された「慈尊院」、官省符社の鎮守社である「丹生官省符神社」、金剛峯寺と慈尊院の中間にあり、金剛峯寺と密接な関係を保ってきた「丹生都比売神社」で構成される。



高野



壇上伽藍にある根本大塔は真言密教の根本道場として建立された。本尊は胎蔵大日如来と金剛界の4仏で、16本の柱には十六大菩薩が画かれている。



金剛峯寺(伽藍地区)

こんごうぶじ(がらんちく)
真言密教の教義を表現した獨特の伽藍配置をみせる。奥院と併せ「両壇」と呼び、高野山の宗教上の重要な聖域である。



慈尊院

じそんいん
紀ノ川南岸に建立された寺院で、本堂である阿弥陀堂には本尊の国宝弥勒仏坐像が安置されている。



丹生官省符神社

にうかんしおふじんじや
弘法大師が高野山麓に政所を置くにあたり、その鎮守として丹生明神、高野明神の2神を奉祀した神社。

世界遺産

1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」、いわゆる『世界遺産条約』にもとづき、人類共有のかけがえのない財産として「国際的」に保護・保全していくことが義務づけられている「跡跡」や「建造物」、「自然」などのことです。

世界遺産に登録されるには、まず国内法で保護されていることが絶対条件であり、ユネスコ「世界遺産委員会」において、資産の内容が、他に類例のない固有のものであり、国際的に決められた評価基準に照らして、「顕著で普遍的な価値」があると認められることが条件です。また、資産の価値にふさわしい、有効な保存管理計画が手厚くなっていることも、必要条件となっています。

2019年3月現在、世界で1092件、日本では22件が登録されています。登録される資産の数が増えるにつれ、一つの国からは原則として同じ種類のものを重複して登録しないことになり、したがって、現在登録されているものは、世界各国の歴史や文化、自然を代表する資産といえます。

物件名

①法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	1993
②姫路城	兵庫県	1993
③屋久島	鹿児島県	1993
④白神山地	青森県・秋田県	1993
⑤古都京都の文化財	京都市・滋賀県	1994
⑥白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県・富山县	1995
⑦厳島神社	広島県	1996
⑧広島の平和記念碑(原爆ドーム)	広島県	1996
⑨古都奈良の文化財	奈良県	1998
⑩日光の社寺	栃木県	1999
⑪琉球王国のグスクおよび関連遺跡群	沖縄県	2000
⑫紀伊山地の霊場と参詣道	和歌山県・三重県・奈良県	2004
⑬知床	北海道	2005
⑭石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県	2007
⑮平泉仏国土(淨土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群	岩手県	2011
⑯小笠原諸島	東京都	2011
⑰富士山-信仰の対象と芸術の源泉	静岡県・山梨県	2013
⑱富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	2014
⑲明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業	岩手県・静岡県・山口県・福岡県・熊本県・佐賀県・長崎県・鹿児島県	2015
⑳国立西洋美術館本館「ル・コレビュジエ」の建築作品-近代建築運動への顕著な貢献	東京都	2016
㉑「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群	福岡県	2017
㉒長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産	長崎県・熊本県	2018

日本の世界遺産



「紀伊山地の霊場と参詣道」登録資産目録

資産	種別	年代	概要	所在県名
熊野本宮大社	遺跡	(有史以前)	熊野三山を構成する三神社の一つ	和歌山県
熊野速玉大社	遺跡・景観	(有史以前)	巨石崇拝に起源し熊野三山を構成する三神社の一つ	和歌山県
熊野那智大社	遺跡・景観	(有史以前)	滝崇拝に起源し熊野三山を構成する三神社の一つ	和歌山県
那智山青岸渡寺	遺跡	5世紀前半	滝に出現したとされる観音を本尊とする寺院	和歌山県
那智大滝	景観	(有史以前)	古代から信仰の対象とされてきた日本一の滝	和歌山県
那智原始林	景観	(有史以前)	神域として保護されてきた原始林	和歌山県
補陀洛山寺	遺跡	5世紀前半	観音の浄土「補陀落山」に渡海する信仰の拠点寺院の遺跡	和歌山県
丹生都比売神社	遺跡	(有史以前)	金剛峯寺の鎮守である神社及び仏教施設の遺跡と参詣道	和歌山県
金剛峯寺	遺跡・景観	816	真言密教の修行道場として創建された金剛峯寺の境内地	和歌山県
慈尊院	遺跡	9世紀前半	金剛峯寺の政所に創建された寺院	和歌山県
丹生官省符神社	遺跡	9世紀前半	金剛峯寺の政所の鎮守として勧請された神々を祀る神社	和歌山県
吉野山	遺跡・景観	(有史以前)	山岳信仰と修験道の聖地	奈良県
吉野水分神社	遺跡	(有史以前)	吉野山の地主神を祀る神社の遺跡	奈良県
金峯神社	遺跡	(有史以前)	吉野山の地主神を祀る神社の遺跡	奈良県
金峯山寺	遺跡	12世紀	修験道の中心寺院及び付属施設の遺跡	奈良県
吉水神社	遺跡	12世紀	金峯山寺に付属した寺院の遺跡	奈良県
大峰山寺	遺跡	8世紀初	修験道の本尊が出現したという高山の山頂にある寺院を中心とする修験場及び遺跡	奈良県
熊野参詣道(熊野古道)	遺跡・景観	10世紀前半以前	熊野三山への参詣者が数多く通行した道(総延長212.2km)	和歌山県・三重県・奈良県
中辺路	遺跡・景観	(有史以前)	京都と熊野三山及び熊野三山相互を結ぶ最も重要な参詣道(総延長100.2km)	和歌山県・三重県
大辺路	遺跡・景観	8世紀	紀伊半島西岸を通る参詣道(総延長14.1km)	和歌山県
小辺路	遺跡・景観	1573以前	高野山と熊野三山を結ぶ参詣道(総延長43.7km)	和歌山県・奈良県
伊勢路	遺跡・景観	10世紀後半以前	紀伊半島東岸を通り、伊勢神宮と熊野三山を結ぶ(総延長54.2km)	和歌山県・三重県
高野参詣道	遺跡・景観	9世紀前半	高野山への参詣者が数多く通行した道(総延長48.6km)	和歌山県
大峯奥駆道	遺跡・景観	8世紀初	吉野・大峯と熊野三山を結ぶ修験者の修行の道(総延長86.9km)	和歌山県・奈良県